

## 生涯スポーツの実践意欲を育む体育授業の検討：授業で感じる楽しさがもたらす影響

遠山孝司<sup>1)</sup>、松村陸輝<sup>2)</sup>、高田大輔<sup>1)</sup>

- 1) 新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科
- 2) 新潟医療福祉大学健康スポーツ学科 卒業生

【背景・目的】現在の学校教育の保健体育の目的の一つに生涯スポーツに導くというものがある。これに関して2008年の学習指導要領の改訂では「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」という表現が採用され<sup>1)</sup>、保健体育の授業の中で生涯スポーツを実践していく資質を子どもの中に育てることが求められている。

大人が日常的にスポーツに取り組む要因を検討する視点として、自己決定理論や自尊心モデル<sup>2)</sup>、身体活動の習慣化などがあるが<sup>3)</sup>、学校教育の中でさまざまな運動、スポーツを経験した子どもたちが将来主体的にスポーツに取り組むようになると考えると、体育の授業の中で感じた楽しさも全ての子どもに影響を与える要因の一つと考えられる。そこで本研究では体育の授業の楽しさとして「動く楽しさ」「集う楽しさ」「解る楽しさ」「伸びる楽しさ」<sup>4)</sup>を取り上げ、高校生が授業の単元を通じて感じた楽しさと将来の運動に対する意欲の関連を検討する。なお、高校生が体育の授業の中で感じる楽しさは単元の内容、性別、普段の身体活動の習慣にも影響を受けることが考えられるため、これらの条件で群別に検討を行う。

【方法】新潟県内の高等学校の生徒に調査を依頼し、89名から協力を得た。その中でサッカーを教材とした1年生男子の41名、ソフトボールを教材とした2年生女子31名の授業を分析の対象とした。授業の単元終了後に「普段の生活の中での運動習慣」「単元を通じて生じた運動全体に対する意欲の変化」「授業中に感じた4種類の楽しさ」のそれぞれを項目群を用いて質問紙法で測定した。

【結果】質問紙への回答漏れがあったデータを除き分析を行った。1週間に5日以上、1日あたり30分以上運動をしているかという基準で日頃の運動習慣の有無を分類したところ、サッカーを行った1年生男子のうち運動習慣あり群は26名、なし群は13名、ソフトボールを行った2年生女子のうちあり群は14名、なし群は16名であった。

「運動全体に対する意欲の変化」「授業中の4種類の楽しさ」の各下位尺度得点として「運動を楽しむ気持」「運動が好きな気持」「定期的な運動の必要性の理解」「定期的な運動への意欲」の得点ならびに「動く楽しさ」「集う楽しさ」「解る楽しさ」「伸びる楽しさ」の得点を算出後、多重共線性による過誤を避けるため、サッカーの運動習慣なし群については、「解る楽しさ」と「伸びる楽しさ」を「解る・伸びる楽しさ」として合成し3つの楽しさ得点を、それ以外の群については4つの楽しさ得点を、それぞれ予測変数とし、「運動に対する意欲の変化」の下位尺度得点を

目的変数としたステップワイズ法による重回帰分析を行った。その結果、サッカーの運動習慣あり群は「解る楽しさ」と「集う楽しさ」が高いときに運動を楽しむ気持が高まること、「集う楽しさ」と「動く楽しさ」が高いときに運動が好きな気持が高まること、「集う楽しさ」と「伸びる楽しさ」が高いときに定期的な運動の必要性の理解と意欲が高まること示された。サッカーの運動習慣なし群は「集う楽しさ」が高いときに運動を楽しむ気持と運動が好きな気持が高まること、「解る・伸びる楽しさ」が高いときに定期的な運動の必要性の理解と意欲が高まること示された。ソフトボールの運動習慣あり群は「動く楽しさ」が高いときに運動を楽しむ気持、運動が好きな気持と定期的な運動への意欲が高まること、「伸びる楽しさ」が高いときに定期的な運動の必要性の理解が高まること示された。ソフトボールの運動習慣なし群は「動く楽しさ」が高いときに運動を楽しむ気持、定期的な運動の必要性の理解と意欲が高まること、「伸びる楽しさ」が高いときに運動が好きな気持と定期的な運動への意欲が高まること示された。

【考察】分析の結果、体育の授業の楽しさの多くが「動全体に対する意欲にポジティブな影響を与えているが、細かな点では、運動習慣の有無、学年及び性別、単元で扱ったスポーツによって、楽しさが与えるポジティブな影響が異なることが明らかにされた。ただし共通して「動く楽しさ」「伸びる楽しさ」が多くのポジティブな影響を与えており、これは高校の体育の授業の中で教師が「体を動かす気持ちよさ」と「できるようになる感覚」を両立させ、生徒に体験させることが多くの生徒を生涯スポーツへ導く可能性を示唆するものである。本研究では、特定の性別の一部の球技のみの授業でのデータを取り上げて分析を行ったが、球技以外のさまざまなスポーツにおいても同様の効果が示されるか今後の検討が待たれる。

【結論】高校生が体育の授業で感じている楽しさは、生涯スポーツの実践意欲に影響することが示唆された。さまざまなタイプの生徒に共通して、楽しさの中でも「体を動かす気持ちよさ」と「できなかったことができるようになる楽しさ」の両立が生涯スポーツの実践意欲にポジティブな影響を与えることが明らかにされた。

### 【文献】

- 1) 文部科学省：学習指導要領解説 保健体育編，2008.
- 2) マーティン ハガー・ニコス ハヅィザランティス（著），湯川進太郎・泊 真児・大石千歳（訳）：スポーツ社会心理学—エクササイズとスポーツへの社会心理学的アプローチ— 北大路書房，2007.
- 3) ベス H. マーカス・リーアン H. フォーサイス（著），下光輝一，中村好男，岡浩一郎（訳）：行動科学を活かした身体活動・運動支援—活動的なライフスタイルへの動機付け— 大修館書店，2006.
- 4) 高田典衛：よい体育授業と教師— 大修館書店，1985.